

グリーンサークル 38号

クローズアップ
活動団体紹介

鈴木 均
なな山緑地の会
亀ヶ谷緑地班
下田 祐也



ヤマホタルブクロ

～クローズアップ～

木のおもちゃ作りを思う

森木会本部 鈴木 均 (工房 がらくう 代表)



現役時代、引退したら今まで時間がなくてできなかった木工を再開したいと思っていました。現役を退き、いざ始めようとしたとき、往時のような家具などの大物作りではなく何か別の物を、と考えていた時に孫が誕生し、おもちゃ作りを始めましたが、ただ何となくおもちゃを作るのではなく、おもちゃについて少し勉強をしたいと思いました。

四谷三丁目にある「東京おもちゃ美術館」で開催されている「おもちゃコンサルタント」の講習会を知り受講して、おもちゃの歴史、良いおもちゃとはどのようなものか、アイデアの考え方、安心・安全なおもちゃとは何か、等おもちゃの奥深さを知りました。

人は喜びを感じるものの一つに、考えた事を見える形に作り上げることがあると言われていることもあり、「作る ワクワク 遊び ドキドキ 贈る トキメキ」をおもちゃ作りの基本として、完成品も作りますが、「キット」作りに重きを置いて活動をしています。

キットの良さは、物づくりの一步として、ある程度加工された部品を組み立てて、一応キットとしての完成品を作り上げることができることと、さらに色付けなど自分自身で追加の加工を自由に加えることで、オンリーワンの本当の完成品を作り上げることができることです。

キットの良さは、物づくりの一步として、ある程度加工された部品を組み立てて、一応キットとしての完成品を作り上げることができることと、さらに色付けなど自分自身で追加の加工を自由に加えることで、オンリーワンの本当の完成品を作り上げることができることです。

キットを作ることを通じて、次は自分自身が考案し、部品作りから始めてもらうこと、できればその楽しさを広く皆さんに伝えてもらうことが念願です。

現役を退いて10年以上経過して、昨年やっと個人商店を立ち上げる機会を得ました。

昨年はよちよち歩きの助走期間として、今年からは本格的に活動をとっていましたが、コロナの影響で、3月に開催予定の「ぶるぶるレースのワークショップ」が中止になるなど全く活動ができない状況ですが、十分な時間がありますので、新しい商品の開発、商品化に苦闘しつつ充実した日々を過ごしています。

今までと同じ生活には戻れないとは思いますが、このコロナ禍に立ち向かい、新しい生活(どのような生活になるか皆目見当もつきませんが)ができるまで、ひたすら耐え抜きたいと思います。

新しい生活が始まったらできるだけ長くこの活動を続けていきたい、それが今後の目標です。

皆さんもコロナウイルスに感染しない様、くれぐれもご自愛ください。

皆さんと元氣にお会いできることを楽しみにしています。



2019年1月20日開催
「木エクラフト森の時計」より

<鈴木さんの作品より>



ぶるぶるレース
ハンドルを回すと、振動でテーブル上の駒が動きます。



回る水族園
ハンドルを回すと、面白消しゴムの海の生物たちが上下しながら回転します。



ダブルコースター
(現在試作品を作成、商品化に向けての検討中)
コースター一台をアップダウンさせることで、ゴンドラが左右に移動します。

～活動団体紹介～

なな山緑地の会の紹介

なな山緑地の会 宮崎 裕

先輩たちが「なな山緑地の会」を立ち上げてから今年で 17 年になります。私は「グリーンボランティア講座初級」を修了した 2014 年の秋になな山に入会したので、今年で六年目になります。なな山緑地の地形的な特徴や季節毎の植生等の全般的な事は、既にグリーンサークル 17 号*1 で紹介されています。それから約 5 年経ちますが、植生などに特に大きな変化はありませんが、間伐などの手入れと散策路が追加・整備されより広い範囲を観察できるようになりました。

例えば、薄暗く立ち入り難かった西の谷の奥は間伐で林床に陽が差し込み健康的な明るさになり、今迄見えなかった植物が多く観察できるようになったばかりでなく、不法投棄のごみの投げ入れが少なくなりました。

東の山の篠竹の藪を通る散策路が整備され、メカイやシノダケ・ヒンメリ等の材料供給地となっています。良い篠竹を育成するため、間伐の方法を変えて数か所の区域で育成テスト中です。

又、なな山には里山の環境保全と直接結び付く活動以外に、関連ある多くの活動をしている事が関係者を惹きつける魅力の一つだと思います。その幾つかを紹介します。

コナラ・クヌギ・ヤマザクラ等の伐倒

なな山緑地は 2.5 ヘクタールの内にある斜面地を西の山、中の山、東の山と分けて呼んでいるが、非常に多くの草花や樹木があります。西の山はコナラ、クヌギ、ヤマザクラ等の落葉樹の 15～20m を超える高木が多く、台風や雪で折れ枝が垂れ枝になる事が少なくありません。このような危険な木を含め、シーズンで 10 本位の木を伐倒する機会があります。掛かり木になり苦労する事も有りますが、大きな木が倒れる瞬間の感動と醍醐味を味わうことができます。なな山ではセミプロの木こりの様な会員の技術指導の下で安全に伐倒できる事が強みと思っています。

薄暗かった西の谷の奥は間伐で陽が差す様になった



アズマネザサの育成中

植物標本活動

植物に詳しく愛着を持っている会員が多くいます。2016 年 4 月より始まった「なな山緑地植物標本プロジェクト」は首都大学東京(現都立大学)牧野標本館の加藤英寿先生の指導のもと、緑地内に生育する全植物の標本作製し、牧野標本館へ寄贈する事を目指して行われました。寄贈点数は 382 点になりました。寄贈した標本の中から 50 点を展示する植物標本展を、2017 年 11 月に牧野標本館との共催で開催しました。これらの標本はブログで順次紹介されています。

シノダケ・ヒンメリ*2

「ヒンメリ」は麦わらで作った北欧フィンランドの伝統的な装飾品ですが、なな山では素材を麦わらではなく、細い篠竹で作るので「シノダケ・ヒンメリ」と名付けられています。なな山の会員が作品の創意工夫に励む傍ら、ブログでの紹介や市内で開かれるワークショップを通して広く一般市民にもその普及を図っています。

なな山のブログ

[\(https://nanayamaryokuti.jimdofree.com/\)](https://nanayamaryokuti.jimdofree.com/)

会員以外の閲覧者数がこの種のブログとしては、非常に多いと担当者から聞いています。昨年の投稿数を振り返ると、平均 17 回/月 (2 日に 1 回のペース) で更新されている事が魅力の一つかもしれません。

なな山緑地の会の定例活動日は 2 回/月ですが、有志参加のなな山木工クラブの活動、多摩めかいクラブ、シノダケ・ヒンメリの活動のほか、小学校・高等学校・大学などの教育機関、各種団体の学習・体験・観察のフィールドとして活用される内容が逐次投稿されるので、幅広く新鮮な記事が注目されていると思います。

*1 グリーンサークル 17 号 2 ページ

「なな山緑地で活動するということ」相田 幸一氏 著

*2 グリーンサークル 37 号 1 ページ

「多摩発『シノダケ・ヒンメリ』の話」中山 茂樹氏 著

～活動団体紹介～

亀ヶ谷緑地班の紹介

亀ヶ谷班竹林の管理状況 副班長 久保田 尚克

青木葉通りを挟んで、中央公園の反対側の緑地が亀ヶ谷緑地である。

亀ヶ谷班は第9期初級講座の受講者有志が立ち上げ、緑地の北の里山部分の保全管理を2011年から開始し、その後、2014年から竹林（樹木と竹の混合、竹は孟宗、真竹、根笹）0.3haの保全活動を開始し、今年で7年目になる。

この間、林地内に作業用の通路3ルート、階段3か所を設置した。

また、竹林保全の経験者は班員の中にはいなかったため、取敢えずということで、竹林内の整理清掃と古竹の除去から手を付けた。その中で、小狸の寝ぐらではないかとの判断で手入れを保留した1か所、藪として残置した2か所を除いて整理がついたのが2018年であった。

この5年間で、最初は、市にお願いして除去した竹を焼却処分してきたが、その後、除去した竹の竹稈は切り株、杭等により斜面に寝かせ置きし、枝は包縛して竹稈に縛り付け、落ち葉や斜面の土壌の流れ止めにした。併せて、隣接する団地の落ち葉、除草時の草を2018年から19年にかけて受け入れ、竹林床の改善を試行してみた。その結果が否か不明であるが、昨年、今年と発生した竹の子の径が以前と比較してかなり太くなってしまった。

また、竹の子の発生本数がどのくらいあるのか、2016年から3年間、時系列（3月下旬から5月上旬）で追跡した。その結果、偶数年は豊作で、奇数年は不作と当たり年と裏年があることが判明し、当たり年はタケノコが親竹に生育する本数が200本程度、裏年は50本程度。出てきた竹の子のほぼ1/3程度が親竹になると思われる。また、2016年以降、新竹に発生年を竹に直接記録する作業をしてきた。

2018年の班総会で竹林のあるべき姿はどんなものかが議論になり、現実に即した管理方針を作ろうということになり、元々、樹木と竹の混合林である竹林を「竹林にしよう」という点で班の合意ができ、竹林整備概要の策定を始めることにした。

竹林管理の参考資料は、竹の子生産のための竹林保全が主であり、それに沿って作ると全体の竹本数は1200本になる。

10本/25㎡（平均直径120mmの竹）を想定、面積は0.3ha（既存の竹：1176本 2018年11月測定）

この結果、2019年は古竹の除去は不要と判断され、除去作業は実施しなかった。

今年は当たり年になり、天候状況のもよるが、大量に竹の子が発生することが想定された。そこで、当たり年と裏年の差を縮小するために、今年は新しく親竹になるであろう竹の子を意図的に減らして150本とし、その他はどんどん除去して、栄養を来年に持ち越すようにできないか試行してみることを提案し、班員から了解を得た。



亀ヶ谷緑地竹林

ここから逆転の発想が出てきて、我が亀ヶ谷班で定期的に管理できる本数は一体何本になるか考え、そこから、全体の本数を想定してみた。要は、年間、何本除去可能か想定することである。現在、中心となる班員の年齢からして、作業量低減は必須の検討事項として考えざるを得ない。

実績から、イベント関係で約50本、班活動1回で20本程度、3回の活動日で約60本、年間110本、5年で550本。新しい親竹発生は5年間で450～550本と見込まれるので、ほぼ、整合性が確保できる。

これを活動実態からの適正本数と考え、今後の竹林保全管理を行うことを提案し、班として考えていきたい。

亀ヶ谷緑地班の活動状況 副班長 石川 るみ子

青木葉通の奥の脇道を少し入ると、高木低木入り混じった雑木林(?)があります。

三々五々集まってくる仲間と、軽口をたたきながら挨拶を交わし、新芽から新緑へと早々に変化する環境に話は弾み、鳥もさえずりながらの参加です。残念なことに、こんな一場面が今年では中断しています。

3年前初級講座終了後、亀ヶ谷緑地を活動先にした理由の一つは、昔、多摩丘陵の開拓時に取り残されたのかと思われるような、歪な地形の自然に興味を持ったからです。

子供が作ったとみられる秘密基地跡、狸の糞発見、足元にキンランが～！当初は驚きの連続でした。多摩センターからほど近いこんな場所に植生と小動物と子供が共存していたとは！

コナラのホダ木はシイタケを育て、大きな朴葉の葉は朴葉寿司に、春を告げるキクザキイチゲを増殖盛んなシャガラから守ったり、タマノカンアオイを保護したり、又台風で傷んだ木や山道を修理したりと、変化にとんだ亀ヶ谷緑地の作業の尽きることはありません。

この3年間で頼もしい6人の仲間が増えました。今は仲間との再会と、活動が再開される日を心待ちにしています。

～多摩市みどりのかわら版～

公園の雑学

多摩市環境部 公園緑地課 みどり担当 下田 祐也

私は、平成 29 年 4 月 1 日に多摩市に入庁、公園緑地課に配属され、令和元年度までの 3 年間は公園管理を担当しておりました。令和 2 年度からはみどりの保全や緑化推進の担当になります。多摩グリーンボランティア森木会（以下、森木会とします。）の皆様とは、昨年度まで、公園管理の関係で大変お世話になりました。今年度からは、みどりの保全・育成の関係でお世話になります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

さて、このあとは題名のとおり、私が入庁から 3 年間公園管理を担当する中で「え！そうなの！」と驚くような雑学的な公園の事柄が多数ありましたので、その中から印象的だった 3 点を紹介させていただこうと思います。

1. 瓜生せせらぎ散歩道の、瓜生公園及び瓜生自治会館近くにあるオブジェのモチーフは“タニシ”

私は、多摩市立永山小学校に通学していたため、この小学校から最も近い水辺である瓜生せせらぎ散歩道をよく利用しておりました。瓜生せせらぎ散歩道には、カニやカメといった水棲生物のオブジェがあるのですが、その中のオブジェの 1 つはモチーフが分かりませんでした。偶然、このオブジェを設置した業者と関わる機会があり、**タニシ**がモチーフであると知りました。



タニシだったのか・・・

2. 十二てん公園の読み方は“じゅんてんこうえん”

十二てん公園は、平久保公園（びりくぼこうえん）と並ぶ、多摩市で最も読み方が難しい公園だと思います。入庁前は“じゅうにてんこうえん”と勘違いしておりました。

3. 多摩中央公園の大池の中には水上ステージの土台！

多摩中央公園の大池の中には、水上ステージの土台があります。最後に使用したのは、令和元年 9 月の東京都・多摩市合同総合防災訓練の時です。平常時、水上ステージの

土台は沈んでいます。ステージを組み立てるときのみ、池の水位を下げて水面から出します。



・・・知らなかったです

まだまだ入庁 4 年目の青二才ではありますが、皆様とともに多摩市のみどりについての知識を深めていきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

表紙の絵

「ヤマホタルブクロ」絵・内城葉子

雑木林や道端で良く見かけ、この辺りでは 2 種類あります。ガク片の間が反りかえっていわばホタルブクロ、膨らんでいわばヤマホタルブクロです。

<プロフィール> 1949 年東京生まれ。1986 年国立科学博物館第 2 回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989 年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショー Gold Medal 受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005 年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが溶暗に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信

グリーンサークル 38 号

発行日：2020 年 6 月 1 日

編集・発行責任：

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合 2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>